＜報告・記録＞

幼稚園教諭・保育士養成の現状と課題

黒　田　宣　代
東亜大学　人間科学部　心理臨床・子ども学科
kurodan@toua-u.ac.jp

キーワード：キャリア・デザイン，早期離職，追跡調査，高大連携

1. 研究の目的

保育士不足という社会的背景から，昨今では，保育士・保育教諭[i]・幼稚園教諭を志す学生の就職内定状況は，ほぼ 100％で推移している。このような状況下で，こんにちの学生には危機感・使命感などが見られず，就職後，1 年もたたずに離職してしまうケースが少なくない。これでは，教育・保育を志した意味さえも疑問を呈する状態である。

本研究は，上述した状況下で，学生が卒業後，就職した現場で十分な能力を発揮し，生じる壁を乗り越え，自分のキャリアを構築する力を育成することを目的とし調査研究をスタートさせた。

そこで，まず，将来，保育士・保育教諭・幼稚園教諭を志望していると思われる養成校の短大生の意識調査を実施し，現状を把握した。次に，昨年度，卒業した学生のその後を追跡調査し，質問調査を実施した。内容は質的データが主となる。

そして，これらの調査データをもとに，教諭・保育士になろうとする意識の入り口（入学動機）と出口（卒業後の就職先），さらに就職後，教諭・保育士になってからのキャリア意識を見つめ，教諭・保育士の資質向上としての今後の課題を考察しようとするものである。

2. 研究調査方法

2-1. 調査方法――そのⅠ

本研究における調査方法は，3 種類ある。

まず，対象を短期大学 1 年生（50 名以上）とし，その 1 年生が実習に入る前，つまり入学後の 10 か月目にアンケート調査を実施し，キャリア意識の入り口を探る。アンケート調査内容は，①幼児保育学科に入学した志望動機，②短大卒業後の職業，③ 10 年後の職業についてである。これらの単純集計をとり，現 1 年生の現状を捉える。

2-2. 調査方法――そのⅡ

2 つ目は，卒業後の追跡調査である。本調査は 2017 年 3 月に卒業した学生を対象としたインタビュー調査である。その調査内容とは，卒業後に幼稚園および保育所・認定こども園，社会福祉施設に就職した学生に限定し，卒業後の 1 年半の様子を探るものである。つまりは，現在も卒業後の就職先でキャリア継続中なのか，あるいは離職したかを調査する。また，就職継続中ならびに離職した元学生を抽出し 1 時間程度のインタビューを実施した上で，卒業後のキャリア意識に照射する。

上述の調査対象となったものは，2017 年 3 月，幼児保育学科卒業者 66 名（女子 53 名・男子 13 名）中，幼稚園，保育所，認定こども園，社会福祉施設に就職した 53 名である。

2-3. 調査方法――そのⅢ

最後は，保育士養成校の短期大学2年生（2017年11月当時）に教育（幼稚園）実習後の質問調査として，質的調査を2回実施した。2回実施した背景は，当時，養成校では，幼稚園実習が前半10日間，後半13日間，合計23日間実施されていた関係で，前半と後半のデータを抽出し，その前後の差異を分析するためである。

調査時期は，前半の実習直後の6月29日と後半の実習直後の12月4日に実施した。これらをもとに学生のキャリア意識等を分析し，実習後のキャリア・デザインの変容等を探った。

3. 短大1年生のキャリア意識

私は，以前，N短期大学の幼児保育学科に勤務していた。本大学では，幼稚園教諭免許と保育士資格取得を目的とした1学年70名近くの学生が在籍していた。しかし，学科内の学生を常日頃より観察していくと，彼ら彼女らのキャリア意識に疑問を抱かざるを得ないような日々が続いた。その理由の背景には学生の安易な考えから進学したことが要因だと推察された。

そこで，1年生を対象にアンケート調査を実施し，そのあたりの要因を明確にしようと考えた。

本調査は，1年生が2017年4月に入学し，その後，10月の観察実習（1日8時間）を終え，2018年1月の後期試験前に実施した。1年生は，後期試験終了後に，本実習（保育園実習2週間＆施設実習2週間）に向かうことになっている。

3-1. 短大1年生のキャリア意識調査結果

調査実施日は，2018年1月17日で，場所は，講義終了後の教室内である。有効回答数は52（全数53の内，無効1)。質問は，以下の3問を提示した。

①幼児保育学科への入学理由

②短大卒業後の進路予定

③10年後の職業（∴29歳前後）

その回答が以下の通りである。

3-1-1. 短大生の幼児保育学科への入学理由

まず，①の入学理由においては，「幼稚園免許・保育士資格取得のため」が79％[ii]，「高校教諭，保護者の勧め」が9％，「友達が行くのでなんとなく一緒にきた」が8％，「一番近くて進学が可能なところ」という理由が4％となった。つまり，約2割の学生の入学動機に自らの意思が明確に見られないということが抽出された。

3-1-2. 短大生の卒業後の進路予定

質問②の短大卒業後の進路予定については，「幼稚園教諭・保育士・施設職員になる」予定というのが87％で，「その他」が13％であった。「その他」の内訳（7名）としては，キックボクサー，イラスト関係，調理師，事務職員，進学が各1名ずつで，未定が2名であった。

3-1-3. 短大生の10年後の職業回答（男性）

質問③の「10年後の職業」については，学生が29歳前後の職業を想定しての回答となる。この質問では，結果を男子と女子に区別して見てみることにする。

まず，男子（12名）においては，「幼稚園教諭・保育士・施設職員」（つまりキャリア続行）が58％（7名）で，「その他」が42％（5名）でいう結果であった。

「その他」の内訳（5名）としては，チャイルドインストラクター，調理師，未定が各1名ずつで，自営業が2名であった。

3-1-4. 短大生の10年後の職業回答（女性）

ここでは女子（40名）において，「幼稚園教諭・保育士・施設職員」（つまりキャリア続行）が40％（16名）で一番多い。次に「主婦（パート含む)」というのが32％（13名），3番目が「キャリア続行か，もしくは主婦」というのが23％（9名）で残りは，「未定」が5％（2名）であった。

3-1-5. アンケート回答の結論

まず，入学理由の2割が積極的な進学理由とは言い難いものであったことである。

また，男性に特徴的な回答として，42%の男性が幼稚園免許・保育士資格とは関係のない職業を考えていることである。

さらに，女性に特徴的なものとしては，10年後のキャリアの視点を見つめる上で，女性の半数以上（55%）が10年後のその姿として，専業主婦を望んでおり，結婚するまでの腰掛的な職業として位置づけていると推察される。つまり，幼稚園免許，保育士資格を活かした職業のモチベーションが低いことが見受けられ，キャリア志向の学生が少ないことが露見した。

4. 短大卒業後のキャリア調査

これまでは，在学中の学生に焦点をあてて，彼ら彼女らの意識を見つめてきたが，ここでは，学生が卒業後，どのようにキャリアを伸ばしているのか，その実態をインタビュー調査（フォーカス・グループ・インタビュー形式）[iii]にて実施した。調査対象者は，卒業後1年半が経過した学生である。

4-1. 卒業生の追跡調査

本調査対象者は，2015年4月に入学し，2017年3月に短大を卒業したものである。その内訳は，男子13名（20%），女子52名（80%），合計65名が2017年3月に卒業している。その65名中，今回は，幼稚園・保育園・認定こども園そして，福祉施設就職者52名（80%）に限って追跡調査を実施した。結果，下記の(1)～(3)の事例が抽出された。

（事例1）正規職員から非正規職員へ
（事例2）職場不適応による休・退職
（事例3）就職後，1年半以内に妊娠・出産による退職

4-1-1.（事例1）正規職員から非正規職員へ

追跡調査後に事例1が抽出された。この事例は，正規職員として採用されたものが1年以内に，その業務上ゆえに自分の意思に関係なく職位を変更されたという事案である。

本調査は，卒業生の中で幼稚園・保育園・認定こども園，社会福祉施設に正規に就職した元学生の追跡調査で，内2名の学生が正規職員から非正規職員へと待遇が変更したという。その2名とも職場は，認定こども園であった。

待遇変更理由は，一名にピアノ技術が未熟であったということ。別の一名には，保育援助（子どもとの接し方）においてコミュニケーション能力の面で問題があったという理由である。この2名の内，ピアノ技能で非正規職員へと変更したものは，すでに離職している。もう一名のコミュニケーション能力問題を指摘されたものは，現在，非正規職員として同職場でキャリア継続中である。

4-1-2.（事例2）職場不適応による休・退職

次は，職場の人間関係により，休職あるいは，退職してしまったという事例である。

本事例では，前述の質問と同様に，幼稚園・保育園・認定こども園，社会施設就職者，52名中4名（8%）のものが就職後1年以内に精神的に追い詰められて職場を離れたという結果となった。特徴としては，男女ともそれぞれ2名ずつであるが，在学中は各学生が真面目で実習評価も優秀であったということである。離職した元学生の中には，在学中は，リーダー的存在で全て[iv]の実習評価もオールAであった健康的な男子学生が，卒業後は，職場での人間関係に悩み，毎回，出社前に感情を抑えきれず，涙を流す日々が続いたと語った。

4-1-3.（事例3）就職後，1年半以内に妊娠・出産による退職

本事例は，卒業・就職後1年半以内（2017年4月～2018年8月迄）に「妊娠・出産」により退職したという数字である。調査データは，N短大の1クラス[v]の女子のみ（19名）をフォーカス・グループとして分析したもので，結果，19名中3名（16%）が抽出された。

4-2. 離職者内訳

上述の事例2と3のほかに，技能等で職場を

離職したものが調査で2名計上している。一名は，事例1に記したものが1名，他1名は，遅刻，欠席が多く，職場に適さなかった女子が離職（自主退職）している。これらをすべてプラスして，全体を整理して見つめると以下のような結果となる。

母数は，幼稚園・保育園・認定こども園，社会福祉施設就職者52名となる。その中で，1年半以内の離職者数は，男子2名女子7名で合計9名となり全体の17%にあたる。

表1「1年半以内の離職理由」〈n＝52〉

メンタルヘルス	4名	男子2名・女子2名
妊娠・出産	3名	女子3名
職能不適応等	2名	女子2名
合　　計	9名	男子2名・女子7名

4-3. インタビュー調査回答の結論

女子の妊娠・出産による退職が，すでに1年半後には，約16%（19名中の3名）に上っていることで，今後，キャリア・デザインという意味においては再考する必要が考えられる。

また，短大在学中は，実習ならびに講義ともに優秀な成績を収めていた学生が人間関係における精神面では，壁を乗り越えられなかったということで，退職を希望する様相が見て取れる。これについても今後，学生自身のメンタルヘルスケアにおいて再考する必要があるように思われた。

5. 幼稚園・保育園実習後の意識変容

ここでは，短大の2年時在学中の学生を対象として，彼ら彼女らのキャリア意識を見つめることを目的とした。まず，調査校では，教育（幼稚園）実習を2回に分けて実施している。その前半は6月の中旬に10日間，後半は11月中旬に13日間，合計23日間の実施となる。この前半と後半における実習体験についてそれぞれの実習終了後にアンケート（質的調査）を実施した。

ここでは，その2回のアンケートの中で，後半の11月の実習終了後の質問（2問のみ）の回答（記述式）を端的に紹介する。一問目の質問は，「6月の実習と11月の実習を踏まえて，1度目と2度目で何か違った点や気づいた点」という質問である。

2問目は，「本実習の反省点」という質問の回答である。回答数は，幼稚園実習を終了した48名（男子8名・女子40名）[vi]である。

5-1. 初回実習と2度目の実習体験の違い

この2つの本実習では，季節が変わるため，行事などの違いもあり，確認事項や取り組み方も違ったようだ。例えば，6月は，園内の行事も少ないが，11月は発表会や芋ほり，遠足などの行事が入っており，幼児の様子も6月とは違った顔をのぞかせていたようだ。

また，1回目に比べ，2回目になると園児が実習生のことを認知している分，コミュニケーションも上手く行き，円滑な実習が行われたように見える。

一方，6月では「部分実習」[vii]のみの実施であったが，11月は「1日実習」[viii]が要請されているために，指導案作りやピアノ伴奏などで精神的に余裕のない日々をひたすら頑張っているようだった。

また，幼稚園の指導者側としても，1回目の実習では温かく学生を見守ってくれるが，2回目の実習となると，やはり実習生のことを考えて，時には厳しく指導するということは通例である。したがって，学生の中には，2回目途中で遅刻，欠席が多くみられるようになることが少なくなく，結果的に教員免許取得に至らないケースもあった。学生らの総合的な意見としては，実習は，課題をクリアするのが大変だけれども，愛嬌ある子どもたちと接するとその大変さを消し忘れてしまうほどの「ほっこり感」もあり，一言で言えば，「辛いけど楽しい」というのが実習生の実感であったようだ。

5-2. 幼稚園実習におけるエピソード

ここでは，ある学生[ix]が実習時に体験した貴重なエピソードを一つ紹介したいと思う。それは以下のような話である。

朝，着替えを終えた子どもらが何をして遊ぶ

かを決めようとしていた。S君はブロックがしたいと言い張る。周りの子は昨日したから違うものがいいと言い始める。しかし，S君はブロックがいいと譲らない。そして怒り始める。そこで，実習生が「いつもはどうしているの？」と子どもたちへ尋ねる。そうすると，子どもたちは，いつもは1番に着替えた子が決めているという。そこで，その日に1番に着替えたK君が遊びを決めることになる。K君は普段から周りに合わせる子どもで，自分では決められず，他の子に耳打ちされて，その日は，ままごとをすることになった。しかし，そのことを受け入れられないS君は，余計に怒り，泣き始める。すると周りの子はS君の様子を見て笑い始める。自分が笑われていることに怒りの矛先が変わったS君をみて，また笑う周りの子どもたち。そして，その場は，どんどんヒートアップ（嘲笑い）していく。そこで，実習生は，「何もおもしろいことないよ。」と周りの子どもに声をかける。すると遊びを決めたK君が「僕もそう思う。S君，明日も僕が1番に着替えるから，明日はブロックしようね。」と言う。そして，周りの子も次々にS君に謝り始める。するとS君も「僕も怒ってごめんね。」と謝り，みんなでままごとを始める。

以上が実習生の体験した貴重なエピソードである。

5-3. 実習体験時の振り返り

このエピソードを語ってくれた実習生は，振り返りシートで以下のように考察する。

「クラス全員でのもめ事は初めてで，どうすればいいのか分からなかった。S君を納得するにはどうしたらいいのか悩んでいると次々に笑い始める子どもたち。私は『何もおもしろいことないよ』と言うことしかできなかった。しかし，その言葉を機にK君がS君に向けて思いを伝えて来てくれた。そして，その思いはS君に届き，S君もみんなも納得する形でままごとをすることが出来た。

この体験から，5歳児とは思えないK君の気配りや思いに感動した。保育者は，『駄目だよ』と判断を下すような指導だけではなく，子どもたちに何かを考えさせる声掛けも大切だと悟った。」

6. 本調査のまとめ

本調査では，短期大学の1年生，2年生，卒業生を対象とし，それぞれに違った視点のアンケートならびに聞き取り調査を実施し，3種類の回答結果から，キャリア・デザインという視点を分析したものである。

まず一つ目の調査では，1年生を対象としてキャリアの入り口を見つめた。ここでは，1年生の大半が免許・資格取得を目的として入学してきたという一方で，その目的意識が曖昧かつ安易であり，免許・資格を将来のキャリアに繋げて考えていない学生も2割程度存在することがわかった。この2割程度の学生のケースとは，自身が熱望して入学したわけではなく，周りの友達あるいは親や知人に委ねた人生の選択であった。つまり，自身が免許・資格取得を目指してきた入学ではなかったということの結果である。毎年，入学者の約2割程度が退学していくという現実もこうした背景に裏打ちされていると言えるだろう。

次に二つめの調査では，直近で卒業した元学生（2015年4月入学 2017年3月卒業）を対象に，卒業後の追跡調査を実施し，離職率と離職理由を見つめた。その結果，明らかになったのは，卒業後1年半の間にすでに17%が離（休）職したこと。また，メンタルヘルス（職場での人間関係）が原因で離（休）職した者は，在学中，優秀な学生であったこと。さらに妊娠・出産により辞めざるを得ない状況が少なくないことがあげられる。理由に関わらず全体として就職後1年半で17%が離（休）職したという現状は今後の課題であると推察される。

そして，最後の3番目の調査は，実習における学生のキャリア意識を見つめたものである。質的データから得られた回答から，学生にとって実習はハードルが高く，クリアすることが大変なことであるという一方で，園児らを通して，実習生自身が磨かれていく場であるということを自覚することにより，キャリア意識が高

まっていくということが抽出された。

これらを踏まえると，幼稚園免許・保育士資格取得希望の学生における今後の課題においては，将来，免許・資格を活かしたキャリア・デザインを大学入学時，さらに在学中にしっかりと描かせることにある。そのためには，まず，大学入学前の各高校との密な連携，つまりは「高大連携」により個人の入学動機を明らかにさせることが前提である。安易な動機や親，友人等における他者の意見に押し流されたような入学動機では，大学においての免許・資格取得のための本実習等はクリアできない。さらに，指導者は，より多くの自己研鑽を体験する機会を学生に促すことが必要であろう。

7. 付記

本報告は，一般社団法人，全国保育士養成協議会における平成29年度ブロック[x]研究助成（研究代表者：黒田〈西島〉宣代）を受け，平成30年9月（岐阜県長良川国際会議場）の「全国保育士養成セミナー」にて発表したものに加筆修正したものである。末筆ながら，全国保育士養成協議会にて研究助成を頂けたこと，この場をお借りして感謝の意を表したい。

注

i　認定こども園における指導者を保育教諭と呼ぶ。保育教諭は，幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を持つものを指す。

ii　%はすべて，四捨五入している。

iii　2017年3月に卒業した学生を2人あるいは3人程度で集め，そのグループの中で対話し，質問したりして，情報を収集する方法。

iv　幼稚園実習・施設実習・保育園実習のこと。

v　N短大では，1学年にAとBの2クラスが存在する。1クラスは35名前後。今回の調査では，Aクラス情報が得られた。一方，Bクラス情報は残念ではあるが，現在の時点で就職後，1年半以内の妊娠・出産による退職の追跡調査が未確定であったため数に入れていない。

vi　調査対象校は，保育士・幼稚園教諭の養成校であり，2つの資格取得を目指している。実習は，1年次の終わりに，保育実習を終え，2年次に入り，幼稚園実習を実施するというプランである。しかし，1年次の実習において，様々な困難を伴う学生がおり，幼稚園実習が難しいという学生や学生自ら幼稚園実習を辞退するものも出てくる。したがって，幼稚園実習を受講する学生人数が保育実習に比べ，極端に少なくなる。

vii　部分実習とは，園児を対象として45分前後の授業をするということ。その際，授業では，園の指導者らに参観して頂き，指導案や授業の進め方などのアドバイスを受ける。

viii　一日（全日）実習とは，部分実習が終了した実習生が，今度は45分だけではなく，1日を通してクラスを担当し，指導者から1日の指導案や授業の仕方についてアドバイスを受けるということ。

ix　N短期大学2年福山由璃亜（2017年当時）

x　ブロックは，当時，所属は九州である。